

リハビリ部門における車椅子などの福祉用具のレンタル導入の試み

医療法人社団 幸隆会 多摩丘陵病院 理学療法科 科長
中澤 幹夫 (なかざわ みきお)

【はじめに】

回復期リハビリ病棟に入院される患者さまは、様々な合併症を有する場合が多く、その障がい像も多様化してきている。リハビリを実施する上で、その多様な障がい像に合わせた車椅子やクッション、歩行器などの用具が必要となってくる。そのため当院では、座幅などが変更可能なモジュラー型車椅子や歩行器などを導入し、多様な障がい像に対応している。しかし、その種類や数が不足している感は否めない。現在、多種多様な福祉用具が販売されているが、リハビリに必要なすべての用具を購入することは、経済的や保守点検の問題等があり困難である。そこで、リハビリに必要と思われる車椅子などの福祉用具を、病院負担でレンタルし、リハビリに導入する試みを 2011 年 6 月より開始した。その試みについて、以下に報告する。

【開始までの準備】

- ① リハビリスタッフに、必要と思われる福祉用具について調査を行った。
- ② 複数の福祉用具レンタル業者より、同一用品の見積もりを取り、業者の選定を行った。

【レンタルまでの手順】

- ① チームカンファレンスで、福祉用具の導入について検討する。
- ② 福祉用具のレンタルの希望を、担当科長（理学療法科 科長）に申請する。
- ③ 業者に電話連絡し、レンタルを開始する。

【実際にレンタルした福祉用具】

- ① ティルト・リクライニング車椅子、低床車椅子、ブレーキ補助付き車椅子、車椅子クッション
- ② 歩行器、四点杖

【実績と今後の展望】

- 多種多様な障がい像に対応するため、病院負担による福祉用具のレンタル導入を開始した。
- 普通型車椅子では対応できない患者さまに対し、ティルト・リクライニングなどの車椅子をレンタル導入し、リハビリを実施できた。
- 歩行器などの必要台数に変化がある用具をレンタルで導入し、リハビリを実施できた。
- 今後、委員会等を立ち上げ、レンタルシステムの構築、効果の検証、レンタル用具の拡充を図っていきたい。

【回復期リハビリ病棟実績】平成 23 年 7 月 1 日～平成 23 年 12 月 31 日退院者

患者数：152 名（内訳；脳卒中系：100 名、骨折系：49 名、その他：3 名）

平均入院日数：87 日（内訳；脳卒中系：100 日、骨折系：61 日、その他：69 日）

自宅復帰率：87%（内訳；脳卒中系：78%、骨折系：78%、その他：33%）

1 日あたりのリハビリ提供平均単位数：6.4 単位